

第2回 小学校再編に関する地域住民説明会（南小松島小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月24日（火） 19時開始
- 場 所 : 南小松島小学校 2階 会議室
- 参 加 者 : 17名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名
(事務局)
- 内 容 : 1. 開 会
2. 教育長あいさつ
3. 教育委員会職員紹介
4. 配布資料確認
5. 説 明
① 小学校再編に向けて
② 小松島市立学校再編基本計画（案）
③ 学校施設の利活用
6. 質疑・応答（意見交換）
7. 閉 会

地域・保護者等から出された主な意見と回答

○3校に最終的にすることを目指すということだが、大体どの小学校でまとめるというの
は決まっているのか。

→（回答）

「実施計画」の中で具体の学校数をお示しさせていただくということで、今現在については
はまだ詳細については決まっていない状況。

○既存の学校敷地で、浸水・土砂災害・津波などが無い場所はあるか。地震が起き、津波が
来た時、殆ど浸水するのでないか。

→（回答）

場所についてはあくまでも「既存の学校敷地」からとなっているが、説明させていただい
たように、当然防災上の観点というのは第一に考えていかなければならないということも
あるので、そのような場所を今後考えていかなければならない。学校敷地というのは、原則
論という話をさせていただいている。「安全上ここが適地」だといった場合は、既存の学校
敷地にとらわれることなく、考えていきたい。

○学校が再編された場合、2キロから3キロ以内までの通学範囲、今実際南校で通学して

いる子でバス通になっている。徳島県でバス通の学校は殆どないが、3 km超えている子は、今何の補助もない。そのことについて今から検討されるのか。

→ (回答)

2 kmから3 kmで通学支援というのを学校再編に基づき設定しようという部分については、南校の子どもさん方がバスに乗ってきている距離が2 kmから3 kmというのがある。通学支援のやり方、果たして個人で負担いただくのか、公費で設定して構えていくのが適当か、というのが出てくる。南校では保護者負担をいただいて、市の方からもということで事業をやっている現状がある。新しい学校再編がこういった形の通学支援になるのかといったことは、南校の現状の通学支援の見直しも含めて考えていかなければならない。

○施設利用について文科省のもので示されたが、徳島県の県教委とかが調べた県独自の回答や、それに関する資料はないか。

→ (回答)

おそらく廃校後の利活用の資料はあるかと思うが、私どもの方で調査してまとめたものというのは手元に持っていない。一般的に県内でみると、勝浦町坂本小学校で宿泊施設という例もある。県西部、三好市・美馬市など市町村合併した後に周辺部の学校を休校して統合する、というケースがあるかと思うが、周辺部にある学校施設の利活用は多々あると思う。

○新しく校舎を作るかどうかは分からないが、いずれ建て替えなければならないのが何校もあるのに、予算はあるのか。

→ (回答)

学校再編によって新しくできる学校の校舎はできるだけ新しいものにしたい、というのが当然ある。11の小学校を更に建て替えるというのは、計画的にやったとしても非常に難しい。今回の再編について具体の数は別にして、一度にまとまって、というのはならないので、そこは計画的にということにはなるかと思う。

○今ある11小学校がどの程度浸水してというのは、市のハザードマップを調べると分かり、その中でどの小学校なら使えるとか使えないとか、今の段階で分かっているのではないか。

→ (回答)

ハザードマップによると市内の大部分の地域に津波が押し寄せてくるというふうに想定されている。そういった津波対策を含めて場所も検討しなければならないということで、現時点では全部津波が来るということで学校を建てる所がないでないか、という議論が出てくる。津波が来るが、校舎の高さを変えるとか、若干津波が来る高さが低いとか、そういったことを総合的に考えて、新しい学校の場所を考えていかなければならない。現状では、そういったところしか申し上げることができないが、当然、安全・安心と浸水・土砂災害・津波といったことを踏まえると、そういったことを考えて場所も考えなければならないと思

っている。

○建物の更新時期だが、南小は平成 38 年度、もう 10 年後だと思うが、それまでに建て替えなければいけないということか。

→ (回答)

建築後 60 年というのが新たに立て替えをする目安として今後取り組んでいかなければならないということで、お示しの期間が絶対というわけではないが、「建築後 60 年＝老朽化」ということもあるので、一つの目安として考えていかなければならない。

○完成の目安が平成 42 年度とあったので、この完成の所だと老朽化が過ぎていると思うが、できるだけ早く行うという気持ちはあるのか。

→ (回答)

2030 年度までに 60 年を過ぎる学校が 6 校ある。あくまでも計画期間の設定としては、そこまでは学校再編をやり遂げたい、というところがある。「実施計画」の中で開校時期を設定していくことになるので、現時点では 60 年を過ぎる学校がたくさん出てくるので、できるだけその枠内でやっていきたいというのが現状の考え方。

○今から計画を実施しようと考えてから 2030 年までかかるものか。もっと早くできるのではないか。

→ (回答)

南中学校の例だが、学校の建設というのは学校を建てるようになってから、2 年から 3 年はかかる。当然大きい建物であるとその前に設計という話が出てくる。場所が決まってからも数年かかるということになる。この度の小学校については、それに加えて場所の問題という話が出てくるので、施設も古いいろいろな形で防災の心配という話もある。極力早くはかかりたいが、2030 年の中においてもいろいろな形で決めていかなければならないということもあるので、そのようなことを踏まえつつ、取り組んでいきたいと思っている。